

平成28年度 奈良県立五條高等学校（全日制）学校評価総括表

学校経営方針	<p>夢の実現を目指した活力ある学校 ～志を高く その気になれ～</p> <p>本校では、将来の目標を見据えて、常に高い志をもって行動できる生徒の育成に重点を置いている。さらに、「社会で自立して生き抜く力の育成」を目指し、「未来につながる確かな学力」「豊かな心で人と連なるコミュニケーション能力」「困難に打ち克つ体力・忍耐力・規範意識の向上」に努める。</p>					総合評価
前年度の成果と課題	<p>これまで、全日制・定時制・昼間定時制とそれぞれの生徒の実態に合わせながら、充実した施設設備を最大限に活用し、創造的で独創的な多くの取組を積極的に実践することによって『学校の魅力づくり』と『入学希望生徒の確保』を学校経営の主眼点とし、学校の活性化に取り組んできた。学校教育改革に向けた取組をはじめ10年余りが経過したが、地元五條市等の少子化の進行で不安定要素が大きくなっている。 今までの取組を通して、明らかになった課題を整理し、生徒・保護者の期待に応えるべく、学力の向上を図るなど更なる改善・充実を図る必要がある。 平成27年度は、入試におけるスクールバスの運行をはじめとして、中学校や保護者に対して積極的な広報に努めてきた。 平成28年度は、本校創立120周年を迎えるに当たり、10年後を視野に入れた新しい学校改革の具体的方策を検討するとともに、積極的な取り組みを進めたい。</p>					B
本年度の重点目標		評価の指標（担当）等	自己評価	成果と課題 □学校・家庭・地域が連携する取組	改善方策等	学校関係者評価
1 「社会で自立して生き抜く力」の育成 具体的目標 ○主な具体的方策		<p>1 「社会で自立して生き抜く力」の育成</p> <p>(1) 未来につながる確かな学力 ①家庭での主体的な学習の拡充、学ぶ意欲の醸成 ○学習活動の工夫を図る。 ⇒生徒アンケート「五條高校で行われている授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている。」(教務部) 28年度<目標:82%></p> <p>⇒保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」(教務部) 28年度<目標:90%></p> <p>②少人数・習熟度別指導の充実、外部講師の活用</p> <p>⇒本校よりの短期海外研修における参加人数(総務部) 28年度<目標:15名></p> <p>③オーストラリア姉妹校交流による国際感覚の涵養 ○ガートン校との海外短期研修を円滑に行う。 ⇒生徒アンケート(第3学年)「自分の希望する進路実現ができた」(進路指導部) 28年度<目標:95%以上></p> <p>④計画的・系統的な進路指導とキャリア教育の充実 ○進路決定に向けたホームルーム活動や相談活動を充実させる。 ⇒生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」(進路指導部) 28年度<目標:90%></p> <p>(2) 豊かな心で、人と連なるコミュニケーション能力 ①地域と繋がり、地元へ貢献するボランティア活動の推進 ・高校生による地域貢献活動 ・五條市学生版元気なまちづくり交付金関連の取組 ⇒生徒アンケート「五條高校の生徒会活動は活発で、関心を持てる内容である」(生徒指導部) 28年度<目標:80%></p> <p>②生徒が主体的に運営する学校行事の工夫 ○生徒会執行部の活動の活性化を図り、魅力ある実践活動を目指す。</p> <p>③各教科・総合学習の授業における言語活動の充実</p> <p>(3) 困難に打ち克つ体力・忍耐力・規範意識 ①部活動活性化による「文武両道」の実現 ○部活動加入に向けた取組を工夫し、部活動加入率を向上させる。 ⇒部活動加入率(生徒指導部) 28年度<目標:80%></p> <p>②「金剛登山」など、豊富な体育行事で鍛える体力・忍耐力 ○体育活動を通して生徒の心身の健全な発育と体力の向上を図る。 ⇒各体育行事の参加率(保健体育部) 28年度<目標:95%></p> <p>③徹底した交通安全教育・挨拶運動等で規範意識を</p>				
<p>⇒アンケート結果80.8% (1学期末) 1年全クラスの数Ⅰ・英表Ⅰで習熟度別・少人数指導を導入したことで、昨年度より生徒の満足度は上昇した。</p> <p>⇒アンケート結果87.6% (2学期末)</p> <p>□防災に関する学習会 商業科外部講師</p> <p>⇒本年度は、11名が短期海外研修に参加し、異文化に触れた。</p> <p>⇒アンケート結果88.2% ほぼ前年並であった。</p> <p>⇒アンケート結果84.6%(保護者アンケートは86.1%)で昨年を下回る結果となった。</p> <p>□インターンシップ 進路相談会</p>	<p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>・生徒・保護者の授業満足度を更に向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、授業改善に取り組む。</p> <p>・生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主体的な学びにつなげる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、実力テスト等の結果を分析し、取組の検証を行う。</p> <p>・短期海外研修について、機会あるごとに発信する。</p> <p>・確かな学力育成のために各教科や教務部との連携、教育課程の検討を行っていく。</p> <p>・新たな取組より、現在取り組んでいることの点検作業を行い内実を高める。</p>	<p>・本校での授業内容や進め方についての保護者の満足度が下がっていることだが、ぜひ保護者からの聞き取りをしてほしい。</p> <p>・様々な場面で、防災について学ぶ機会を取り入れる必要がある。</p> <p>・インターンシップは企業にお世話になりながら、社会勉強をさせていただいている。一方で、企業のあてにされている面はないか心配である。</p>		
<p>□保育所、幼稚園との交流 □小中学校運動会補助 □福祉施設との交流 □通学路美化清掃 □地域のイベントへの参加・協力 ⇒生徒会「ききょうまつり」生徒有志 「School Cotton Project 2016」</p> <p>⇒アンケート結果68.6% 昨年度より上昇している。まだ生徒会執行部だけが活動している印象を生徒がもっている。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>B</p>	<p>・全校生徒が生徒会の一員であるという自覚をもたせ、執行部を中心に様々な活動を行う必要がある。</p>	<p>・奈良TIMEに取り組んでいるが、『五條TIME』というか、五條のこと、五條の魅力を知らなくてはならない。</p>		
<p>□市内小学校 陸上競技・水泳・金管バンド指導 ⇒部活動加入率75.6% 昨年度より増加したが、目標を達成していない。経済的な理由に加え、中学校で既に「やり終えた」と考える生徒がいるようだ。</p> <p>⇒本年度も天候に振り回され、実施が危ぶまれた球技大会や体育大会も何とか終了し耐寒登山も実施された。各行事とも参加率95%以上を達成した。</p> <p>□交通安全啓発活動・マスコット配布</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>B</p>	<p>・今以上に生徒が魅力を感じる部活動になるよう、顧問と生徒が共に努力する。</p> <p>・来年度は人工芝化によってグラウンドコンディションに悩まされることなくと思われる反面、熱中症の心配や怪我の状況が変化していくのではないかと予想される</p>	<p>・部活動で良い成績を残していることをうれしく思っている。中学校で部活動をやっていた生徒が高校でも続けるよう、勧誘をしっかりと続けてほしい。</p> <p>・あいさつの指導が行き届いている。学校経営方針である「志</p>		

<p>醸成 ○原付免許取得者や自転車通学者に対して安全運転の意識を高める。</p>	<p>⇒事故件数・違反件数（生徒指導部） 28年度<目標:0件></p>	B		<p>⇒交通事故件数5件 昨年度より減少した。その内、原付による事故が4件で、取組の一定の成果はあったと思われる。</p>	<p>・交通安全、挨拶、規則の遵守など、あらゆる機会を通して、全職員で継続して取り組む。些細な点に気づける体制作りを検討する。</p>	<p>高く「その気になれば」は大事である。高校生といっても心が幼いところもあり、規範意識を育てることが重要である。</p>	
<p>2 外部との連携・情報発信の強化</p>					<p>□保育所、幼稚園との交流 □小中学校運動会補助 □福祉施設との交流 □通学路美化清掃 □地域のイベントへの参加・協力</p>		<p>・中高の連絡会等、気軽に行き来できる機会を増やしていければと思っている。</p>
<p>①地域と共にある学校づくりの推進（小中学校コミュニティ・スクールとの連携） ②育友会・同窓会との連携体制の強化 ○育友会役員会の在り方を工夫し、参加しやすい状況を確認する。 ③HPの充実による効果的な広報活動の推進 ○保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。 ○授業等の様子をWebページに掲載する。</p>	<p>・五條市立小中学校 コミュニティ・スクール部会 ・地域ぐるみで取り組む小・中・高校生規範意識醸成事業 ・中学生のための教科開放講座・スポーツ教室等の開催 ⇒育友会の会員研修会への参加者数（総務部） 28年度<目標:30名> ⇒学校Web年間更新回数（総務部） 28年度<目標:120回> ⇒Webページでの情報発信（教務部） 28年度<目標:年間20回></p>	A	B	<p>⇒こまめな電話・メール・文書による連絡に加え、育友会役員や金陽会の会合にも積極的に参加し、学校の意図を伝えるとともに、学校への要望等を伺う機会を持つことにより、良好な協力・支援関係を構築できた。 ⇒年間更新回数は、約100回に達した。 ⇒授業等の様子をWebページで9回発信できた。（1月末現在）。</p>	<p>・各方面と更に連携して推進する。 ・情報収集や取材にかかる労力が大きく、次年度、部内の増員・分担を考慮する。 ・Webページによる情報発信の回数を増やすとともに、保護者等に本校の魅力ある教育活動の様子をしっかりと伝える。</p>	<p>・（市内小学校を代表して、）様々な面でお世話になり、感謝している。生徒だけでなく、先生方の協力もありがたかった。本校生に指導してもらっている様子を保護者にも見せたい。</p>	
<p>3 安定した入学希望者の確保</p>							
<p>①グラウンド人工芝化による活動の活性化 ②制服のモデルチェンジ ③地域・中学校との連携と学習塾へのアプローチ ○中学生に本校の様子について体験できる機会を提供する。</p>	<p>・平成28年11月工事開始 ・平成28年度入学生より年次進行 ⇒オープンキャンパス参加者数（総務部） 28年度<目標:400名></p>	A	A	<p>⇒平成29年3月末工事完了予定 ⇒オープンキャンパス参加者数は、406名となり22人増加した。 □中学生のための教科開放講座（サタデーセミナー）・スポーツ教室の開催</p>	<p>・オープンキャンパスに関する広報活動を更に効果的に行う方策を検討する。 ○教科開放講座については、見直しを図る。</p>	<p>・スクールバス、人工芝、カウンセラー等、様々な取組には頭の下がる思いである。 ・小学生の保護者は高校の敷居を高く感じてもらえる。学校の中で何を“売り”にできるか。数年先を見据え、市内の小学校の保護者をターゲットに取組を進めなければならない。</p>	
<p>4 学校改善のための組織的取組</p>							
<p>①創立120周年事業による新たなスクールアイデンティティの構築 ○様々な機会に120年の歴史と伝統について生徒に啓発していく。 ②コミュニティ・スクールによる学校改革と諸活動の最適化（学校運営協議会） ③教育相談体制の構築による生徒支援（スクールカウンセラー・スーパーバイザーの単独配置） ○支援を必要とする生徒やその保護者を対象に、カウンセリングを受ける機会を広げる。 ④授業力向上を目指した取組の充実 ○授業と評価の改善、指導力向上を推進する。 ⑤いじめを許さない学校づくりの推進 ○人権教育HRの内容に「なかまづくり」を導入・展開する。 ⑥OJTに基づく若手教員の実践力の育成 ⑦藤花寮の安定管理</p>	<p>⇒啓発活動の回数（120周年実行委員会） 28年度<目標:年間10回> ・平成28年7月指定 ⇒生徒アンケート「五條高校の先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」（生徒指導部） 28年度<目標:80%> ⇒教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」（教務部） 28年度<目標:93%> ⇒生徒アンケート「五條高校では、授業やHRにおいて、人権問題について考える機会が多い」（人権教育部） 28年度<目標:94%></p>	A	C	<p>⇒生徒会を中心にTeam120等自主的で積極的な取組がなされ、内実ある活動であった。 □学校運営協議会全体会2回 全日制部会2回開催 ⇒アンケート結果が、7月72.1%から12月70.7%と減少。今まで以上に個人面談や居心地の良いクラス作り、日常での親身なかわりが必要である。 ⇒アンケート結果が77.7%。各教科による授業公開の他、教科を超えた授業研究を活発に行うことができた。 ⇒アンケート結果が90.8% 昨年度92.0%から少し減少した。 □藤花寮生保護者集会の開催</p>	<p>○学校関係者評価の充実、学校・家庭・地域が一体となった協働関係の構築を図る。 ・今年度以上に面談内容の充実に努める。 ・授業改善に向けた取組が活発になるよう、方法を工夫したい。 ・人権教育ホームルームの内容を生徒の実態に合わせて検討し、更に改善する。 ・人権教育ホームルームを年間指導計画に基づき、計画とおり実施する。</p>	<p>・10年後を視野に入れた学校改革について、取組を具体化してほしい。</p>	

各分掌等の評価総括

分掌等	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価	
総務部	1-(1)-③ ○ 異文化理解を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア・ガートン校との海外短期研修を円滑に行う。 海外短期研修等の内容を他の生徒に還元していく取組を実施する。 「日韓中ESD-GAP推進国際ワークショップ」等の異文化理解の交流会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ガートン校よりの短期研修生のホームステイ受入れ家庭を確保する。 本校よりの短期研修において、参加人数の増加を図り、国際的な視野を広げさせる。 <p style="text-align: center;">27年度 12名 → 28年度<目標>15名</p> <ul style="list-style-type: none"> 異文化理解の交流会に参加し、事後学習をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は、11名が短期海外研修に参加した。 事前研修に十分時間を取った。 それぞれの生徒の異文化や言語への興味関心が高くなり、今後、生徒の伸長が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> 短期海外研修について、機会あるごとに発信する。 来年度、ガートン校よりの短期海外研修生のホームステイ受入れ家庭を計画的に確保する。 		
	○ 奨学金受付事務を円滑に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に各種奨学金の案内を行い、受付事務を円滑に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年進学希望生徒に対し、日本学生支援機構奨学金及び各種奨学金の説明会を年7回実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 7回を超える回数の説明会を行い、生徒124名の予約手続きを終えた。 個別指導が必要な上、重要な個人情報を取り扱うための設備もなく、物心とも、担当者の負担が極めて大きい。 前倒しされた突然の新奨学金制度にも、対応できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本学生支援機構予約奨学金の申請手続きは、学校が仲介するのではなく、生徒の家庭と機構との直接手続きとなるよう、機構に要望していきたい。 		
	2-② ○ 学校関係者への情報発信の充実に努め、積極的な意見聴取を行うことにより、学校・家庭・地域の連携をより強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 育友会・同窓会等との連携を密にし、学校運営に対する協力・援助を求める。 育友会役員会の在り方を工夫し、参加しやすい状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 育友会・同窓会の定例会に参加し、機会に応じて学校との交流を図る。 育友会の会員研修会への参加意識を高める。 <p style="text-align: center;">27年度 19名 → 28年度<目標>30名</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> こまめな電話・メール・文書による連絡に加え、育友会役員や金陽会の会合にも積極的に参加し、学校の意図を伝えるとともに、学校への要望等を伺う機会を持つことによって、良好な協力・支援関係を構築できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各方面と更に連携して推進する。 		
	1-(2)-③ ○ 式・集会を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 入学式・卒業式及び始業式などに生徒が主体的に取り組み、運営する力量を身に付けさせ、成就感や自信を持たせる。 司会生徒のアナウンス力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 式が厳粛かつ意義深く行われるよう、生徒会担当者や関係分掌等との連携・連絡を密にする。 放送部のアナウンス講習会等に、生徒会役員も参加し講習を受ける。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 卒業式、入学式以外の式において、生徒会役員が中心となり、進行等を行い、生徒による運営の場を設け、自主性を育てることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 進行内容等について、各方面と十分な打ち合わせを行う。また、放送部と連携し生徒会役員のアナウンス技術を向上させる。 	
	3-③ ○ 中学生やその保護者を対象に五條高校の魅力の情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> 五條高校紹介のパンフレット等を作成する。 学校説明会（中学校・保護者・塾等）を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 『学校案内』（4,000部、稼働率95%以上）、『Good Job 通信』（年間4回）、『キャンパスライフ』等の内容を検討し、改訂する。 機会あるごとに説明会を開催し、開催時期、方法等も工夫する。（年間20回以上） 	A		<ul style="list-style-type: none"> 『学校案内』作成方法と業者を刷新して、計画のとおり6月に6000部発行した。 『Good Job 通信』（年間4回）県内48校の中学校の3年生のクラスに掲示依頼した。 『キャンパスライフ』中学生・保護者がより分かりやすく、また、合格者説明会当日に使いやすいよう、内容を整理し、体裁を整えた。 塾等が主催する各学校説明会への参加、塾対象や中学校教員対象の説明会等を実施した。（年間18回） 	<ul style="list-style-type: none"> 『学校案内』について、より一層中学生・保護者にアピールできるものになるよう研究を続ける。 中学校への学校説明会等については、実施時期・回数について検討するとともに、次年度も積極的に取り組む。 昨年度から実施している中学校教員対象説明会の回数増や内容の充実をした中学校の教員対象のオープンスクールの実施を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学希望者の確保に関わり、小学生の保護者は高校の敷居を高く感じておられる。学校の中で何を“売り”にできるか。数年先を見据え、市内の小学校の保護者をターゲットに取組を進めなければならない。
	3-③ ○ 中学生に本校の様子について体験できる機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月の第4週土曜日に開催する。 <p style="text-align: center;">27年度 384人 → 28年度<目標>400人</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパス参加者数は、406名となり22人増加した。 アンケートの結果、オープンキャンパスのすべての内容は、好評であった。 食堂体験は大変盛況で、351食を販売した。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスに関する広報活動を更に効果的に行う方策を検討する。 		
2-① ○ 小学校運動会へ補助を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 市内小学校の運動会へ生徒を派遣する。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月～10月上旬に実施される運動会の補助をする。（実施校の卒業生）（市内9校30人） 	A	<ul style="list-style-type: none"> 市内小中学校10校の運動会の補助に、生徒17人が参加した。 実施日が本校の中間考査期間中と重なり、参加依頼の要望がありながら参加できない小学校があった。 夏期休業中に陸上・水泳の記録会練習会に4校に各1回ずつ、25人が参加した。今後要望される学校が増えることが予想され、学校の順番などの調整が必要となる。 規範意識養成事業の一環で、本校と市内3中学校・1小学校の吹奏楽部で合同練習会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域における児童・生徒数の減少している状況から、補助ボランティアをした学校から感謝の言葉をいただき大変好評で、高校の地域貢献という観点からも重要な活動である。引き続き継続実施したい。日程が合えば五條市内すべての小学校に派遣する。 ボランティアの生徒を募る際、なかなか集まりが悪いので、1年生には運動会補助ボランティア、2年生には地域行事ボランティアと割当を年度当初から両学年に願う。 	<ul style="list-style-type: none"> （市内小学校を代表して、）様々な面でお世話になり、感謝している。生徒だけでなく、先生方の協力もありがたかった。本校生に指導してもらっている様子を保護者にも見せたい。 		

	2-③ ○ 学校ホームページや掲示板等を充実させる。	・学校Webページの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。	・年間更新回数を増加させ、情報をタイムリーに発信する。 27年度 100回 → 28年度<目標>120回	B	・年間更新回数は、約100回に達した。行事等ごとに更新したが、更新が滞ることがあった。 ・更新希望様式の活用頻度が低かったため、再度周知する必要がある。 ・保護者対象アンケートにおいて、本校Webページを「よく見ている」、「時々見ている」と答えた保護者が44%と昨年度より9%増えた。 ・部活動の成績結果の報告は、マ・メールの即時性に依存した。	・情報収集や取材にかかる労力が大きく、次年度、部内の増員・分担を考慮する。 ・各方面からの積極的な情報提供は欠かせない。 是非、各分掌等でWeb担当者を決め、情報収集と提供をお願いする。特に、部活動成績などのアピールを積極的に行うため、速やかに結果をデータで知らせてもらうシステムを工夫する。	
教務部	1-(1)-① / 1-(1)-② ○ 学習活動の工夫を図る。	・生徒の基礎学力の向上を図る。 ・生徒の実態に応じた授業展開、教材開発を行う。	・生徒アンケート「五條高校で行われている授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている」 27年度 80.0% → 28年度<目標>82%	B	・生徒アンケート「五條高校で行われている授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている」が80.8%、「五條高校では授業の方法が自分に適している、内容がよく理解できそうである」が76.3%。(1学期末) ・保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」87.6%。(2学期末) ・1年全クラスの数学Ⅰ・英語表現Ⅰで習熟度別・少人数指導を導入したことで、昨年度より生徒の満足度は上昇した。 ・保護者の満足度が年々低下している。学力向上が生徒、保護者ともに実感できる取組が必要である。	・生徒・保護者の授業満足度を更に向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、授業改善に取り組む。 ・生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主体的な学びにつなげる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、実力テスト等の結果を分析し、取組の検証を行う。 ・本校の学習活動について、Webページ等を通じて保護者に周知する。	・本校での授業内容や進め方についての保護者の満足度が下がりがつあるとのことだが、ぜひ保護者からの聞き取りをしてほしい。 ・奈良TIMEに取り組んでいるが、『五條TIME』というか、五條の魅力を知らることがとても大事である。
			・生徒アンケート「五條高校では授業の方法が自分に適している、内容がよく理解できそうである」 27年度 75.8% → 28年度<目標>78%	B			
			・保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」 27年度 89.3% → 28年度<目標>90%	C			
	1-(1)-② / 1-(2)-③ / 4-④/ 4-⑥ ○ 授業と評価の改善、指導力向上を推進する。	・各教科の研究授業を1回以上行い、その約半数の教科で指導主事を招いて実施する。 ・指導主事を招いた研究授業では、研究協議に教科の教員が全員参加できるよう努める。 ・他教科の任意の授業を参観する期間を設け、参観希望授業の集約や調整、時間割変更を確実に行う。	・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合70%以上。	A	・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合が72.7%であった。 ・教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」が77.7%。 ・各教科による授業公開の他、初任者の公開授業も学期に1回以上行い、教科を超えた授業研究を活発に行うことができた。	・研究授業、他教科の授業参観については、アクティブラーニングや観点別評価の導入を視野に入れながら、次年度も継続する。 ・授業改善に向けた取組が活発になるよう、方法を工夫したい。	
			・教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」 27年度 92.5% → 28年度<目標>93%	C			
	2-③ ○ 本校の授業を中心とした教育活動を地域や保護者に情報発信する。	・学校行事で保護者が来校される日程にあわせてオープンスクール(授業公開)を行う。 ・授業等の様子をWebページに掲載する。	・年度中に2回以上実施する。	A	・オープンスクールは2回実施できた。そのうち1回は育友会総会に併せて実施したが、授業参観する保護者が53名と昨年度より減少した。 ・授業等の様子をWebページで9回発信できた(1月末現在)。	・Webページによる情報発信の回数を増やすとともに、保護者等に本校の魅力ある教育活動の様子をしっかりと伝える。	
			・Webページでの情報発信を年間20回以上。	C			
生徒指導部	1-(3) ○ 基本的な生活習慣を確立する。	・挨拶や言葉遣い、身だしなみ、時間を守ること等、基本的な生活習慣を確立させる。	・年間欠席総数 目標昨年度比約10%減 27年度 1879回 → 28年度<目標>1691回	C	・2月末現在、欠席総数2606回と昨年度よりも大きく増加。様々な原因が考えられるが、今後個人面談や教育相談の取組、居場所のあるクラス作りをさらに充実させ安心して登校できる環境作りを目指す。 ・遅刻総数は899回と残念ながら目標達成はできず。減少を目指して、来年度の課題とする。	・家庭との連携を一層密にして保護者の協力を得られるよう努力する。外部の専門機関との連携を図り、不登校生徒の支援をする。	
			・年間遅刻総数 目標昨年度比約10%減 27年度 627回 → 28年度<目標>564回				
			・原付免許取得者集会、単車通学生集会、単車実技講習会、自転車通学生集会をそれぞれ開催する。 事故件数 27年度 13件 → 28年度<目標>0件 違反件数 27年度 2件 → 28年度<目標>0件 ・外部講師による生活安全講演会を年間1回以上実施する。 ・生徒アンケート「あなたは服装や髪型など学校の規則やきまりをきちんと守っていますか」 27年度 97.2% → 28年度<目標>98%以上				
1-(2)-①② / 1-(3)-① / 2-① / 3-①③ ○ 生徒会活動や部活動を積極的に奨励し、生徒の主体的活動を促進する。	・生徒会執行部の活動の活性化を図り魅力ある実践活動を目指す。 ・部活動加入に向けた取組を工夫し、部活動加入率を向上させる。 ・各部に所属する生徒一人一人の所属感、使命感、活動意欲の高揚を図るため集会を開催する。	・生徒アンケート「五條高校の生徒会活動は活発で、関心が持てる内容である」 27年度 65.1% → 28年度<目標>80% ・部活動加入率 27年度 73.5% → 28年度<目標>80% ・部員集会やキャプテン会議を学期に1回以上開催する。	B	・生徒会活動に関するアンケート結果は、68.6%と昨年度より上昇している。まだ生徒会執行部だけが活動している印象を生徒がもっている。 ・部活動加入率は、75.6%と昨年度より増加したが、目標達成していない。経済的な理由に加え、中学校で既に「やり終えた」と考える生徒がいるようだ。	・全校生徒が生徒会の一員であるという自覚をもたせ、執行部を中心に様々な活動を行う必要がある。 ・今以上に生徒が魅力を感じる部活動になるよう、顧問と生徒が共に努力する。	・部活動で良い成績を残していることをうれしく思っている。中学校で部活動をやっていた生徒が高校でも続けるよう、勧誘をしっかりと続けてほしい。	

	4-③ ○ 教育相談体制を確立する。	・教育相談体制を整備して、支援を必要とする生徒（不登校傾向を示す生徒や特に困難な課題を持つ生徒等）やその保護者を対象に、外部機関と連携を図りながらカウンセリングを受ける機会を広げる。	・問題を抱える生徒の早期発見、早期対応、予防的な取組を行う。 ・当該生徒対象にケース会議を考査期間中に開き、対応を検討する。 ・生徒アンケート「五條高校の先生は親身になって接してくれ、 <u>気軽に相談できる</u> 」 <u>27年度</u> 75.9% → <u>28年度<目標:80%</u>	C	・アンケート結果が、7月72.1%から12月70.7%と減少。今まで以上に個人面談や居心地の良いクラス作り、日常での親身なかかわりが必要である。	・今年度以上に面談内容の充実に努める。	
進路指導部	1-(1)-②④ / 1-(2)-③ ○ 計画的・系統的な進路指導を行う。	・集会や説明会等を行うことで、望ましい勤労観、職業観を含め、進路について広く深く考えさせる。	・集会、説明会等の実施総数10回。	B	・3年進路内定者集会をはじめ、学年全体や希望者対象の説明会を計12回開催した。集会の目的や中身がより生徒に浸透するような働きかけをしていかなければならない。	・夢プランを活用して各学年段階での目標を生徒にも自覚させ、系統的・計画的な進路指導体制ができるよう担任と進路部の連携を密にする。	・インターンシップは企業にお世話になりながら、社会勉強をさせてもらっている。一方で、企業のあてにされている面はないか心配である。
	1-(1)-④ / 1-(2)-③ ○ 生徒一人一人の進路の実現に向けて、明確な目的意識を持って学習に取り組ませる。	・進路決定に向けたホームルーム活動や相談活動を充実させる。	・生徒アンケート(第3学年) 「 <u>自分の希望する進路実現ができた</u> 」 <u>27年度</u> (進路決定者の内)88.3% → <u>28年度<目標:95%以上</u> ・生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 <u>27年度</u> 88.2% → <u>28年度<目標:90%</u>	B	・「進路実現ができた」生徒は88.2%でほぼ前年並であった。また、「丁寧な進路指導」は84.6%(保護者アンケートは86.1%)で昨年を下回る結果となった。進路実現のための確かな学力の育成や相談体制の確立が課題となる。	・確かな学力育成のために各教科や教務部との連携、教育課程の検討を行っていく。 ・新たな取組より、現在取り組んでいることの点検作業を行い内実を高める。	
	1-(1)-④ / 1-(2)-③ ○ 望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。	・進路指導にかかわる職員研修の機会を適宜持つ。	・全体、学年ごとを合わせて、総数5回。	B	・職員研修は全体に1回、各学年や若手教員を対象に4回、計5回実施した。情報の提供や共通理解の深化のためには、段階を追って計画的に実施するとともに、回数を増やす必要がある。	・研修の実施日を早期に計画するとともに、進路指導の全体目標も早期に伝える。 ・進路実現のための学力向上や進路相談体制について、テーマが偏らないように計画する。	
人権教育部	1-(2) ○ 職員の人権意識の資質向上を図る。	・人権教育推進に関する職員研修会を実施する。	・年1～2回に、外部から招聘した講師による研修会を開く。	A	・「ストレスマネジメント」と題して研修会を持った。 ・各種研究大会及び研修会に積極的に参加した。	・一人一人を大切に取る取組を継続する。 ・先生方の自主的な研修への参加を促す。	
	1-(2) / 4-⑤ ○ 人権教育・道徳教育の充実を図り、人間としての在り方生き方を大切に育てる。	・人権教育ホームルームでの内容に「なかまづくり」を導入する。 ・道徳教育の全体計画を作成し、道徳教育を推進する。	・生徒の実態に応じた人権教育年間計画を作成する。 ・道徳教育全体計画に基づき実施し、成果を検証する。 ・生徒アンケート「五條高校では、授業やHRにおいて、 <u>人権問題について考える機会が多い</u> 」 <u>27年度</u> 92.0% → <u>28年度<目標:94%</u>	B	・生徒アンケート「五條高校では、授業やHRにおいて、 <u>人権問題について考える機会が多い</u> 」が、昨年度92.0%から今年度90.8%に少し減少した。	・人権教育ホームルームの内容を生徒の実態に合わせて検討し、更に改善する。 ・人権教育ホームルームを年間指導計画に基づき、計画のとおり実施する。	
	1-(2) ○ 生徒の人権意識を高める。	・「人権を確かめあう日」の啓発文書の文案作成を各分掌に依頼し、多様な視点から人権について考えさせる。	・毎月の「人権を確かめあう日」に生徒・保護者向けの啓発文書を年10回発行する。	A	・生徒・保護者向け啓発文書を10回発行した。 ・人権係は啓発文書の配布日に放送アピールを行った。	・保護者からの感想がほとんど無く、文書が保護者により多く届けられるよう生徒に啓発をする。	
	1-(2) ○ 人権系の力量を高める。	・全学年のホームルームから人権係を2名ずつ選出、人権意識向上の活動を行う。 ・人権系の生徒対象に人権にかかわる講習会を開催する。	・「人権を確かめあう日」の啓発文書配布時に、係生徒が全校生徒向けにその趣旨を放送によりアピールする。 ・ボランティア活動に積極的に参加する。 ・講習会を実施し、クラスでの人権教育の中心として活動できる力量を育てる。 ・人権映画会の司会を人権係が担当する。	B	・人権係の手話講習会を年2回実施した。 ・人権映画会で人権係による進行ができた。 ・解放研の活動が低調であった。	・人権系の活動が全体への活動へと広げられるよう工夫する。 ・解放研活動が継続するよう指導する。	
文化図書部	1-(2)-② ○ 文化行事の充実を図る。	・文化行事の実施により、生徒の自主性や創造性を伸ばし、生徒自らが文化的な活動に取り組む意欲を醸成する。	・文化祭2日間の欠席者数を生徒総数の1%未満にする。 <u>27年度</u> 延べ16名 → <u>28年度<目標:16名未満</u> ・カルタ大会・おはなし会を実施する。	A	・文化祭は、創立120周年記念文化祭として生徒の文化祭実行委員会を組織し、120周年をテーマに3部門での発表を盛大に開催。欠席は2日間で13名であった。 ・カルタ大会・おはなし会ともに盛況であった。	・文化祭の展示・演技部門の内容及び鑑賞方法について検討し、生徒がさらに積極的に参加できるようにする。 ・カルタ大会の実施方法について再検討し、生徒にとって意義深いものになるように工夫する。	
	1-(2)-②③ ○ 図書館利用の促進を図る。	・『図書館報』『図書館だより』を発行し、図書館利用を促進する。	・図書館利用者の増加を図る。 <u>27年度</u> 10,587人 → <u>28年度<目標:11,000人</u> ・貸出冊数の増加を図る。 <u>27年度</u> 1,535冊 → <u>28年度<目標:1,600冊</u>	B	・図書館利用者は、1月31日現在で延べ9,308人、貸出冊数は、1月31日現在で1,330冊である。	・今後も生徒の図書リクエストに応えるとともに、授業や部活動などでの図書館利用を促進する。	
	1-(1)-① ○ 読書活動の活性化を図る。	・生徒の読書の機会を増やし、自ら読書に取り組み、自らの生活を豊かなものにしよとする態度を養う。	・「読書の時間」を(月)と(木)のSHRの前に7分設定し、考査前1週間は、すべての日で実施。読書の習慣を身に付けさせる取組を進める。	A	・朝の読書を週1回または2回実施することができたが、自ら読書に取り組む態度を養うことが課題となる。	・多方面で読書の機会を増やすために、学期に1回実施している一斉読書の時間に、集団読書テキストを用いた読書を取り入れ	

						る。	
保健 体育部	1-(1)-① / 1-(2)-② / 1-(3)-② ○ 体育活動を積極的に取り組む姿勢を養う。	・ 体育活動を通して生徒の心身の健全な発育と体力の向上、(脚力、忍耐力を鍛える)を図るとともに生徒を主体とした体育活動を実施する。	・ 球技大会、体育大会。耐寒登山を実施する。 ・ 各行事の目標参加率を95%以上とする。	A	B	・ 本年度も天候に振り回され、実施が危ぶまれた球技大会や体育大会も何とか終了し耐寒登山も実施された。各行事とも参加率95%以上を達成した。	・ 来年度はグラウンドの人工芝化によってグラウンドコンディションに悩まされることがなくなると思われる反面、熱中症の心配や怪我の状況が変化していくのではないかと予想される。
	○ 体力の向上を図る	・ 体育活動を通じて人と連なるコミュニケーション能力を培う。 ・ 体育の授業だけでなく自らの生活の中で体力向上をめざす運動習慣を確立させる。	・ 体力測定、スポーツテストの結果を踏まえ全学年とも前年度を上回ること。(8項目中5項目以上数値アップを目指す)	B		・ 体力測定・スポーツテストの結果、2年、3年ともに全体として8項目中4種目の数値アップとなった。2年生男子については8項目中7種目の数値アップ、3年生男子については8項目中6種目の数値アップしたが、女子生徒の活動に課題が残された。	・ 体育行事の参加率や運動に対する取り組みは男女ともに意欲的であるので、体育嫌いを作らない配慮とともに毎時間のトレーニング強化が必要である。またトレーニング内容についても変化をつけて単調にならないようにさせたい。
環境 美化部	○ 校内美化を推進する。	・ 日々の清掃活動により校内美化を推進する。 ・ 大掃除を実施する。	・ 保護者アンケート「五條高校では、清掃が行き届いており、校内がきれいに整備されている。」 27年度 61.8% → 28年度<目標> 70%	A		・ 今年度の保護者アンケート結果の「五條高校では、清掃が行き届いており、校内がきれいに整備されている」の項目で、「そう思う」は昨年度より少し減ったが、「どちらかというと思う」も含めれば、97%と、昨年度を上回った。日々の清掃活動がきちんとなされている結果であろう。	・ 日々の清掃活動の中で、共に清掃し、個々の生徒を指導しながら、生徒の美化意識を向上させることに努める。 ・ 美化委員のゴミの分別の意識向上のため、活動回数を増やす。
	1-(2)-① ○ 美化委員会活動を充実させる。	・ 当番制で花の水やり活動を進める。 ・ 通学路美化活動を実施する。 ・ 年2回花の植え替えをする。	・ 花の水やり活動を毎日実施する。 ・ 通学路美化活動を学期に1回実施する。 ・ 秋の120周年式典に向けて、分校の協力を得て、昨年以上の花を校内に飾る。	A	A	・ 花の水やりは、生徒の美化委員会活動として、また担副の協力を得て、ほぼ年間を通して行った。 ・ 通学路清掃は予定通り実施した。 ・ 秋の120周年式典のため、分校の協力を得て、多量の花を校内に飾った。そのときの作業には美化委員以外にも多数の生徒が参加し、全校あげての活動になった。	・ 校内美化の啓発活動などのために、さらに生徒美化委員会を活性化させたい。 ・ 地元中学との連携による美化活動も検討していきたい。
	○ 防災教育を推進する。	・ 避難訓練等を実施することにより、防災意識を高め、災害から身を守る取組を進める。	・ 火災や地震等を想定した避難訓練を5月に実施する。 ・ 防災についての放送で生徒に呼びかける。 ・ 職員研修を行う。	B	B	・ 5月に避難訓練を実施し、防災に関する印刷物を配布した。 ・ 防災等に関する職員研修は行わなかった。	・ 避難訓練では避難練習のほか、救助袋の使用方法や消火訓練以外の体験も消防署と相談しながら行いたい。
120周年 事務局	1-(2)-①② ○ 120周年関連行事への生徒の自主的な参加を促す。	・ 生徒会を中心に、学校諸行事に120周年を明確に位置づけ、全校生徒が意識するよう働きかける。 ・ 校内だけでなく地域にもその働きかけをする。	・ 例年の学校行事が120周年関連諸行事となるよう位置づける。 ・ それらの企画、準備、進行、総括に生徒会が主体的に関わるよう役割分担する。執行部全員に役割分担する。 ・ 生徒からの全校アピールに120周年を含めた内容を入れる。年間10回以上のアピールの場を設定する。	A		・ 各行事で120周年を冠して取組を行い、特に文化祭・体育大会は例年にも増して充実した内容となった。 ・ 生徒会を中心にTeam120等自主的で積極的な取組がなされ、内実ある活動であった。	・ 周年行事を一つの節目ととらえ、よりよき方向への転換点としていくという意識を全校生徒に広めていくためには、前年度からTeam120のような生徒組織を設定し、早い段階から意識付けや活動を積み重ねていく必要があったと思われる。そのためにも、教員組織をもっと早い段階から作り上げ、取組をスタートさせることが求められる。半年という短い期間での取組では、生徒に負担をかけた部分も少なからずあった。
	2-② ○ 120周年行事を円滑に実施する。	・ 育友会、同窓会と連絡を密にし、それらの意見を最大限に行事に反映させる。	・ 実行委員会校内部会を月1回以上、同窓会育友会を加えた実行委員会を年間6回以上開催し、連携を深める。	B	B	・ 校内委員会9回、実行委員会4回に加え、美術展委員会や記念誌編集会議も実施し連携を密にして取り組めた。	
	3-① ○ 120周年関連行事を通して、地域への情報発信を充実させる。	・ 学校HPだけでなく、マスコミへの情報発信も積極的に行っていく。	・ マスコミ各社への情報提供を年間10回を目処に積極的に行う。 ・ 教務部や総務部と連携し、オープンスクールやオープンキャンパス、中学校訪問やサタデーセミナー等の機会に情報発信をしていく。対象中学生数300人以上。	A		・ ポスターやクリアファイル等、情報発信の材料となるアイテムが充実し、その活用も十分にはかることができた。その作成も生徒によるもので、十分に評価できる取組であった。教員側のサポートもよくできた。	
	4-① ○ 120周年の取組が、本校教育今後10年展望の契機となるよう内容を充実させる。	・ 120周年の諸行事を通して全校生徒の規範意識が更に向上するよう働きかけ「五高ブランド」を再構築する。	・ 校外での部活動や地域へのボランティア活動の機会、そして就職や進学での面接試験において、生徒たちが120周年を自らアピールできるよう教育していく。 ・ 校内での様々な集会の場で、120年の歴史と伝統の意義について生徒たちに啓発していく。啓発活動年間10回以上実施する。	C		・ 生徒会やTeam120等の活動は主体的、積極的で、生徒間での意識の共有は良好であったといえる。しかし、式典についての生徒全体への意識付けという意味では不十分で、反省の残るものとなった。	
第1学年	1-(3) ○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・ 中学校との違いを認識し五條高校の生徒としての自覚を持たせ、遅刻や欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。	・ 遅刻の各クラス別年間総数の平均15回未満、欠席が100回未満とする。	B		・ 2学期末時点で、クラス別平均遅刻総数19回、欠席総数86回。 ・ 全体的にみて、挨拶の励行などの規範規律と生活習慣が身に付きつつあるが、今後も継続して取り組んでいきたい。	・ 学年の教員で課題を共有し取り組んでいきたい。 ・ 挨拶や言葉遣いなどを更に徹底させる。 ・ 不登校等問題を抱える生徒に対して、個別指導を効果的なものにしていく方法と体制を工夫す

						る必要がある。	
	1-(3)-① ○ 部活動への参加を勧める。 1-(1)-① ○ 基礎学力を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学習と部活動の両立を目指し、学校生活を意欲的に過ごす姿勢を育てる。 授業を最大限に活用し、予習・復習を毎日の習慣とさせて、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率が80%以上とする。 ほぼ毎日家庭学習をする生徒の割合が70%以上。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 1月末時点で、部活動加入率約80%である。今後、退部者が出ないような働きかけが必要である。 1月実施の生徒対象アンケートによると、ほぼ毎日で勉強している生徒が約50%である。学習に対する意識の低い生徒への働きかけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動未加入者の生徒も学校生活を有意義に過ごせるよう働きかける。 部活動と学習の両立についても指導していきたい。 学習方法が分からない生徒、部活動との両立ができていない生徒に対し、効果的な学習方法を身に付けさせる。
	1-(1)-④ ○ 進路目標を明確化させる。	<ul style="list-style-type: none"> 自らの興味・関心に基づき、適性を探り、進路についての考えを深め、確固たる進路目標を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> LHR等の時間を利用し、第1学年の間に進路目標が定まった者が、80%以上とする。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 1月末時点で、進路希望決定者が50%である。全生徒に進路の目標をしっかりと持たせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来についての目標や展望を持たせるため、ホームルームや面談等を更に充実させる。
第2学年	1-(3) ○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる	<ul style="list-style-type: none"> 中堅学年としての自覚をもたせ、遅刻や欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。 挨拶、言葉遣い等の礼儀作法を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻の各クラス別年間総数の平均が25回未満、欠席が85回未満。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 1月末時点で、クラス別平均遅刻総数が49回、平均欠席総数が98回であった。心身の不調により欠席、遅刻の多い生徒がいる。 挨拶等については、生徒が自覚を持ち、徹底できてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を要する生徒については、担任だけでなく、学年全体で、課題を共有し、日常の声かけや、教育相談などに取り組む。
	1-(1)-① ○ 自主学習の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 課題の提出、小テストの合格に向けての準備を徹底させ、自主学習を習慣付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日にはほぼ毎日家庭学習をする生徒の割合が70%以上。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 12月の調査で、平日に全く家庭学習をしない生徒は21.6%であった。 課題の提出や朝の小テストの準備も不十分な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の確保は必要である。来年度は、進路実現に向けての学習の大切さを、様々な機会に喚起したい。
	1-(1)-④ ○ 具体的な進路目標を設定させる。	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる場面を通じて、主体的に自己の進路について考えさせ、より具体的な進路目標を設定させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2学年の間に志望校、志望職種が定まった者が85%以上。 	A		<ul style="list-style-type: none"> 2月の調査で、91%の生徒は進路希望が具体的に定まりつつある。しかし、残りの生徒は具体的な進路希望の設定ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任の面談等による指導、進路指導部主導の各種行事を効果的に実施し、積極的に参加させたい。
第3学年	1-(3) ○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> 社会人として必要な挨拶、言葉遣い等の礼儀作法、判断力、規範意識を身に付けさせる。また、残り少ない高校生活を無駄にせず、充実した毎日を過ごさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 最高学年としての自覚と責任を持ち、時と場に応じた言動ができる。 クラス別年間遅刻総数の平均が20回未満で、欠席総数の平均が70回未満とする。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、言葉遣いやチャイム前の入室など、ほとんどの生徒が自覚を持ち徹底できた。 クラスあたりの遅刻総数の平均は45回、欠席総数の平均は122回であった。心身の不調により欠席、遅刻の多い者が相当数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の指導を受け入れ、努力する姿がほとんどの生徒に見られた。 指導を要する生徒について、教員全体で課題を共有し、教育相談等にも取り組む必要がある。また、保護者との更なる連携について模索する。
	1-(1)-① ○ 自主学習の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の進路を見据えて、授業、進学講習等に能動的に取り組ませるとともに、家庭においても自主的な学習を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日に家庭学習をほぼ毎日する生徒の割合が90%以上。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 平日に全く家庭学習をしない生徒は7月の調査で20.9%、12月の調査で20.6%。一方、熱心に学習に取り組む者もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活実態をきちんと把握し、個々に的確な指導を行う必要がある。
	1-(1)-④ ○ 進路目標を決定させ、その実現に向けて取り組ませる。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な進路目標を主体的に決定し、その実現に向けて効果的・能動的に取り組ませる。 一人一人の進路に応じて丁寧な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職、進学の実定率が95%以上。 「一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」生徒アンケート・保護者アンケート第3学年が90%以上。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 今後受験する生徒を除く進路未定のまま卒業する生徒は1人である。進路目標を明確に持ち能動的に取り組んだ者が多い。 12月の調査で生徒84.6%、保護者86.1%。満足していない生徒、保護者は何故なのか、考察したい。 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる機会を通じて、本校の学力向上や進路指導の取組をきちんと理解してもらえるよう個々の生徒・保護者にさらに周知する。また、保護者との連携を一層強化する。